

河川敷でのお花見やお散歩、夏の川遊び…… 皆さんの瀬野川の「思い出の風景」は何ですか？



瀬野川には希少種をはじめさまざまな生物が住んでいる。10年近く子どもたちを川に連れて行っているが、ごみ拾いや安全面の事前準備も万全にして、1人もけが人を出したことはない。こんなに安全で楽しい瀬野川を、町内外のもっと多くの人に知ってもらいたい」と熱く会場内に訴えました。



パネリスト

中村 幸春さん

(瀬野川子どもの水辺協議会事務局長)

魅力あふれる瀬野川をもっと多くの人に知ってもらいたい

シマゲンゴロウ



ゴクラクハゼ

タイコウチ



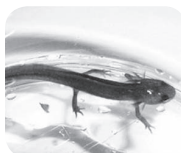
シジミ



ハコネサンショウウオ



テナガエビ



モクスガニ

瀬野川でこんな生物が発見されました！(写真提供：中村幸春さん)



パネリスト

海野 徹也さん

(広島大学大学院生物圏科学研究科准教授)

大学で水圏生物の保全に携わる海野さんは、専門的な切り口で語りました。瀬野川は、ダムや河口堰のない川の中では県下で最大。魚の種類も豊富です。そして、広島湾を共有する太田川の魚たちにとって、バックアップ河川としての役目を果たしているとのこと。

そんな貴重な川を守るためには、「瀬野川を舞台とし、実際に触れ合う体験、現場教育が重要なのでは」と、教育者の立場からも提案しました。また、癒し効果を持つ魚を育む川をこれからも守ってほしいと訴えました。

瀬野川は、魚にとっても、現場教育にとっても貴重な存在

「瀬野川は、まちの宝」

2月4日に開催された「～伝えたい！ 瀬野川の魅力～ まちづくりフォーラム」で、瀬野川を愛する人々が川への思いを語り合いました。

「瀬野川」と聞くと、どのようなことを思い浮かべますか？

瀬野川は、広島市安芸区、東広島市、海田町をまたがる延長22・5km、海田湾へ注ぐ二級河川です。

「いつも素通りするだけ」「以前は汚かったけど今はきれいになった」「河川敷を歩いている人が多いよね」…いえ、実はそれだけではないんです。

海田町の代表的そして貴重な地域資源である瀬野川を活かしたまちづくりを、と町民や大学院生、住民活動団体が中心となって昨年9月から10月にかけて「瀬野川の活用を考える検討会(＝瀬野川ワークショップ)」が開催されました。そこでは、瀬野川がさまざまな点で優れており、「海田町の財産である」ということを再認識することとなりました。

このことをより多くの人に知ってもらいたい—— そんな願いから、2月4日に福祉センターで「海田町まちづくりフォーラム」が開催されました。

第1部は、全体コーディネーターの藤野完二さんと6人のパネリストが瀬野川に対する思いを交えて自己紹介をしました。その後、藤野さんの司会進行のもと、それぞれが意見を交換し合いました。

第2部は、パネリストの吉田彰顕教授の下で情報工学を学ぶ広島市立大学大学院生2人が、瀬野川ワークショップに参加したこと感じたことをまとめ、それぞれの思いを発表しました。

NPO法人中国・地域づくりハウス副理事長を務める傍ら、各地で環境カウンセラーとして活躍する藤野さん。先のワークショップで、参加した子どもが、自ら「瀬野川は海田の財産だ」と発言したことに非常に感動した、と話しました。まさに、生きる力を体験できる場ではないかとの思いを強く実感したそうです。

また、世界的にも水の危機とされているこの時代、「次世代に大切な瀬野川を残す」ということは、子どもたちに命を渡すということ。一部だけでなくみんなが瀬野川に対する思いを共有しなければ」と呼びかけました。



全体コーディネーター

藤野 完二さん

(環境カウンセラー)

瀬野川という財産を次世代につなぐ みんなで思いを共有しよう

吉田さんにとつての瀬野川は、新幹線に乗ったときに「広島に戻ってきた」と実感できる風景なのだそうです。

加えて、今回初めて瀬野川に触れ、さまざまな魚や水鳥など自然があふれ、歩きやすく整備された河川敷…瀬野川の魅力にすっかりはまり、これからの季節は、桜が満開の河川敷が楽しみとのこと。反面、町の玄関でもある海田市駅から河川敷に向かうまでの風景が少し寂しいのでは、と実感。「町外から来た人を迎える入り口の検討も必要なのは」と提案し、「今後も学生たちと一緒に活動していきたい」と意気込みを語りました。

パネリスト

吉田 彰顕さん

(広島市立大学大学院情報科学研究科教授)



これからの季節、桜で満開になった河川敷を歩きたい